

## 出会いに導かれて

児童文学作家 **松井ラフ(松井愛子)氏** (高校36期)

津田塾大学 英文学科卒業  
2005年 日本児童文芸家協会研究会員  
2010年 第14回創作コンクールつばさ賞優秀賞  
日本児童文芸家協会正会員  
2014年 『白い自転車、おいかけて』(PHP研究所) 平成26年度岡山県推奨優良図書  
2016年 『なかよしおまもり、きいた?』(PHP研究所)  
2019年 『となりはリュウくん』(PHP研究所)  
『青いあいつがやってきた?!』(文研出版) 全国学校図書館協議会選定図書  
『児童文芸』にて「コロノコリはオムライス」1年間連載  
2020年 『青いあいつがやってきた?!』が第66回青少年読書感想文全国コンクール  
小学校中学年の部 課題図書に選定



皆さん、こんにちは。私は現在、「松井ラフ」という筆名で子どもたちに向けたお話を書いています。それは、立高時代の私が想像していなかった未来で、いくつもの出会いがもたらしてくれたものでした。

### ■立高時代

とにかく部活！ 硬式テニス部で、早朝にはコート整備(当時はクレーコート)、早弁して昼休みは昼練、放課後の活動も毎日。家に帰るとくたくたで、普段の予習復習なんて到底ムリ。いつも試験前の部活禁止期間に慌てて勉強していました。また、同級生の影響で洋楽を聴き始め、英文科へ進むきっかけになりました。

### ■卒業後～児童書との再会

大学での専攻はアメリカ文化研究。教職課程もとっていましたが、当時は男女雇用機会均等法ができ、コンピューター時代にも突入。「SE=システムエンジニア」が女性の専門職向き職業として脚光を浴びつつ登場していた頃です。津田の先輩方もその方面に進む方々が多くいらして、興味がわいて私もその道へ。激務ではあったもののやった分は評価され、仕事に励む毎日でしたが、夫との出会いがあり、体調を崩したこともあって結婚を機に退職しました。そして出産し、子どもたちと絵本や童話を楽しむ中で、自分でも書いてみたい、本を出したい……と夢見るようになったのです。

### ■創作開始～受賞・出版、課題図書選定

とはいえ、何をすればいいかわからずにいたある日、片付けようと手に取った新聞のチラシに、絵本作りの通信講座を見つけました。これなら小さい子どもがいても在宅でできる、と即受講！ その後、ネットを通じて出会った作家様に勧められ、児童文芸家協会の研究会員に。沢山の書き手の方々と出会いがあり、合評会(互いの作品に意見を言い合う)を中心に、講座や通信添削も受けつつ「物語を書く=創作」の勉強をしていきました。また、それらの費用を自分で稼ぐためと、子どもたちの成長もあって少しずつ仕事も始めました。

そうして数年の月日が過ぎるも何の成果も出せず、「創作にかかる時間とお金を家族の為に使った方がいいのではないかな」そんな思いに囚われていた時、つばさ賞を受賞。

児童文芸家協会の正会員に昇格して『児童文芸』誌に作品が掲載されるようになり、協会の懇親会で出会った編集者様のご縁で、受賞後4年目にしてつばさ賞受賞作での初出版が叶いました。その後3冊が出版され、海外で翻訳版が出版になったり、模試や入試に使っていただく作品もあり、中でも『青いあいつがやってきた?!』は、2020年第66回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書に選定され、喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

### ■児童文学作家として

児童文学は、希望の文学と言われています。たとえハッピーエンドでなくても、そこには必ず希望の光があります。私は子どもの時、いつも、「ああよかった」と、幸せな気持ちで本を閉じました。

私が書くものも、そうありがたい。

そして、「この話、好きだ」と思ってもらえたら、その読者にとっていい出会いのひとつとなってくれたなら——そんな欲張りなことも考えながら、ウンウン唸って創作をしています。

皆さんも、どうぞ出会いを大切に、それらが輝かしい明日へとつながっていきますことを！



『白い自転車、おいかけて』  
中国語版・韓国語版、  
『なかよしおまもり、きいた?』  
中国語版。  
本文横書きの左開きです。  
絵が反転になっているものも。



作品が掲載された『児童文芸』。  
2019年は1年間の連載です。



単行本著作。  
画家さんにも恵まれました。